

こうづ 神津      りきお 里季生

## 「発」の字に思いを込める

● 連合・事務局長

2014年の新春を迎えるにあたり、今年一年が皆様にとって穏やかな、そして実り多い年となりますようお祈り申し上げます。東日本大震災で被災された方々の多くは、いまだ厳しい状況の中でご苦労されています。昨年は、フィリピンで台風が甚大な被害をもたらし、国内でも伊豆大島をはじめ各地で集中豪雨や台風による災害が相次ぐなど、自然の猛威を見せつけられる年でもありました。被災されたすべての方々が一日も早く平穏な暮らしを取り戻せるよう、改めて祈念いたします。

先日、ある機関誌の取材で、今年への思いを漢字に例えるなら、という質問に、「発」と答えました。ご存じのように、この字は元々「發」であり、その語源は、両足を揃えて大地に立つ様を表す「𠂔」に、木の杖などを表す記号である「𠂔」、それに「弓」を加えることで成り立っているそうです。ここから「(弓矢などを)放つ」、「出発する」、「伸びる・広がる」などの意味につながっているようです。

「出発」という意味では、昨年連合大会以降、すでに古賀会長を先頭に新執行体制が走り出しています。その中で、私も事務局長としての任務に当たらせて頂いています。これまでの経験を基礎としながら、連合運動の前進に向けて、その役割を果たして参りたいと思います。

課題の一つは、「発想する力」「発信する力」を高めることです。連合大会では、社会の共感を得られる、広がりのある運動を展開していくことを確認しました。私たちを取り巻く状況は大きく変化しています。グローバル経済の進展、人口減少社会の進行、そして雇用の劣化と低所得層の増加などにより、社会の不安定化や持続可能性に対する懸念が強まっています。この状況を打開するには、従来の延長線上ではない取り組みが求められます。新たな発想の糸口は、様々なレベルでの議論や対話を通じて、各々が持つ知恵を積み重ねていく、ある意味あたり前の活動から生まれるはずで、あたり前のことに徹底して取り組む、そのことを今一度大事にしたいと思えます。運動に対する理解と共感を得るためには、これまで以上にあらゆる場面で連合の姿をアピールすることが必要です。分かりやすく伝えるという基本を大切にしつつ、新しい手法にも果敢に挑戦していきたいと思えます。

「矢を放つ」ということと言えば、安倍政権が放った「3本の矢」の行方が気がかりです。大胆な金融緩和などで物価が上昇基調にあり、消費税率の引き上げも控える中、肝心の所得が増えなければ、国民は流れ矢を浴び、痛みは増すばかりです。政府は、経済界への要請などを通じて、賃上げのマクロ環境を整



えようとしています。しかし、政府の要請だけで全体の賃金が上がり、大手の賃上げが自然と全体に波及するという発想は、いわゆるトリクル・ダウン的考え方によるものであり、私たちには、そのような幻想は無縁です。非正規労働者の処遇改善や雇用の安定に向けた人事処遇のあり方、ワーク・ライフ・バランスの推進、社会的セーフティネットの強化など、社会の底上げ・底支えの仕組みづくりに向けた社会的な対話こそ深められるべきです。

いずれにせよ、デフレ脱却と自律的な経済回復のためには、労働運動自らの力で賃金を底上げしていく以外に道はありません。先の中央委員会で決定した2014春季生活闘争方針では、すべての組合が月例賃金の引き上げにこだわり、雇用形態、企業規模、男女の違いを超えて、すべての働く者の底上げ、格差是正をはかることを確認しました。とりわけ、中小、非正規労働者の処遇改善と格差是正に向けて全力を挙げる所存です。

規制改革についても、真に必要な事項は進められるべきですが、その目的はあくまでも良質な雇用の創出であり、雇用や社会の不安定化を誘発するようでは本末転倒です。ましてや、雇用労働に関する規制まで十把一絡げに規制緩和の対象とし、ILOの三者構成原則を捻じ曲げ、労働者代表が不在の中で議論を進める手法は許されません。解雇規制の緩和については、一時に比べるとトーンダウン

しているように見えますが、予断を持つことなく、働く者を犠牲にする規制緩和を許さない取り組みを展開して参ります。

「伸びる、広がる」という点では、言うまでもなく、賃金・労働条件の相場形成力、そして政策を実現する上での発言力を強化するため、組織拡大の取り組みは最重要課題です。組織率を反転させ、さらには「1000万連合」をめざし、まず足もとから、同じ職場、企業グループで働く未組織・非正規労働者の組織化を加速していかなければなりません。連合本部に新たに設置した組織化専任チームが構成組織、地方連合会との連携強化に向けて動き出しています。私たちが今後、全国の職場・地域をまわり、現場の役員、組合員の皆さんとの心合わせに取り組むことにしています。加えて、連合運動の幅を広げることも重要です。地域で同じ課題意識を持つ様々な人々との連携を模索したいと思います。

今年は、統一連合の発足から25年を迎えます。その節目の年にあたり、すべての働く者のための運動展開、そして「働くことを軸とする安心社会」実現のため、「発」の字のごとく、地に足をつけ、大いに踏ん張り、発信していく1年としたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。